



2006年度 決算説明会

第83期(2006年4月1日～2007年3月31)

2007.05.16

太平洋工業株式会社

一滴のしずくが川の流れとなり、太平洋に注ぎ雲を呼び雨となる。

1930年、2gのバルブコアで創業した当社も事業の幅を広げ、今では海外に5カ国8会社を持つまでに成長した。

四位一体でのものづくり・ひとづくりをベースに地球環境保全に努め、開発型企业として世界に貢献していきたい。



目 次

1. 会社の概要
2. 決算サマリー
3. 中・長期経営計画
4. 連結決算の状況
5. 個別決算の状況
6. CSRの状況

—— 本資料取り扱い上の注意点 ——

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 当社の概要

- ◆創業 1930年8月
- ◆代表者 社長 小川信也
- ◆資本金 43億2千万円
- ◆株式 東証・名証一部上場('70年8月)(証券コード 7250)

セグメント		プレス樹脂製品 事業	バルブ製品事業			情報 サービス	合計
事業			タイヤバルブ事業	制御機器事業	TPMS事業		
P			V	C	T		
単 独	売上高('06)	431億円 68%	52億円 8%	55億円 9%	92億円 15%	—	630億円
	人 員	960人	440人			—	1,500人
	主要工場	西大垣、東大垣 養老、九州	美濃、北大垣	北大垣	北大垣	—	国内6工場
連 結	売上高('06)	603億円 73%	216億円 26%			7億円 1%	826億円
	人 員	1,650人	820人			100人	2,670人
	海外生産拠点	台湾、米国 中国	台湾、韓国、米国 タイ	中国、韓国	—	—	5ヶ国 8会社
主要顧客		トヨタ、ダイハツ、日野 三菱、ホンダ、スズキ デンソー、豊田自動織機 松下電器	ブリヂストン、横浜ゴム 住友ゴム、東洋ゴム 韓国タイヤ、正新 ミシュランタイヤ	デンソー、豊田自動織機 三菱電機、松下電器 東芝、シャープ、ダイワ精工 LG電子、海爾	トヨタ ホンダ 日産	太平洋工業 地域企業	
主要製品		プレス加工 樹脂加工、金型	タイヤバルブ バルブコア	空調用制御弁	TPMS	ゴルフ場 人材派遣 油脂販売 ソフトウェア	

1-2 企業結合の状況

1. 連結会社: 12社

■ プレス樹脂製品事業 ■ バルブ製品事業

区分	会 社 名	事業分野				主な事業内容	設立	出資比率	'06 売上高	人員
		P	V	C	情報・サービス					
国内	ピーアイシステム株式会社 (PSC)				●	情報処理、ソフト開発・販売	1987年	100%	5.9億円	53人
	太平洋開発株式会社 (PDC)				●	ゴルフ場資産管理(養老CC)	1972年	66.1%	2.8億円	29人
	太養興産株式会社 (TYC)				●	ゴルフ場運営(養老CC)	2005年 (PDC)	100%	—	—
	太平洋産業株式会社 (TSC)				●	SS経営、保険代理業務、人材派遣業	1974年	98.7%	23.4億円	12人
	国内連結会社 計								32.2億円	94人
海外	米国	Pacific Industries USA Inc. (PIU)	(持株会社)			下記米国2社の統括管理	1988年	100%	—	—
		※Pacific Industries Air Controls Inc. (PIA)		●	●	バルブ関連製品の製造・販売	1999年 (PIU)	100%	52.6億円	26人
		Pacific Manufacturing Ohio Inc. (PMO)	●	●	●	自動車用プレス・樹脂製品・バルブ関連製品の製造・販売	1999年 (PIU)	100%	136.7億円	444人
	台湾	太平洋汽門工業股份有限公司 (PVT)	●	●	●	自動車用プレス製品・バルブ関連製品の製造・販売	1984年	99.2%	47.2億円	221人
	韓国	太平洋バルブ工業株式会社 (PVI)		●	●	バルブ関連製品の製造・販売	1987年	99.5%	16.1億円	83人
		太平洋エアークントロール工業株式会社 (PAC)			●	カーエアコン部品の製造	2004年 (PVI)	100%	(非連結)	9人
	タイ	Pacific Industries (Thailand) Co.,Ltd. (PIT)		●		バルブ関連製品の製造・販売	1989年	75%	9.3億円	100人
	中国	青島太平洋宏豊精密機器有限公司 (QPH)			●	空調用バルブ関連製品の製造・販売	2000年	55%	6.0億円	165人
		天津太平洋汽車部件有限公司 (TPA)	●			自動車用プレス製品の製造・販売	2005年	100%	—	34人
	海外連結会社 計								268.1億円	1,082人

2. 持分法適用会社: 3社

国内	太平洋精工株式会社 (PEC)	●		●		オートフューズ・電気小物製品の製造・販売	1961年	20%	142億円	279人
海外(米国)	※Takumi Stamping Inc. (TSI)	●				自動車用小物プレス製品の製造・販売	2001年	48%	34.2億円	214人
	Takumi Stamping Texas Inc. (TSI-TX)	●				自動車用小物プレス製品の製造・販売	2005年	20%	17.3億円	125人

※Pacific Industries Air Controls Inc. は、2007年4月1日付けでPacific Manufacturing Ohio Inc.と合併し、解散しました。
Takumi Stamping Inc.は、2007年1月に出資比率を60%⇒48%へ変更し、連結子会社から持分法適用会社となりました。

1-3 企業理念・経営理念

企業理念

わが社はメーカーとして、

1. 技術開発に努め、お客様の要望に応えた高いレベルの商品を提供していきます。

→

品質理念

2. 人間尊重を基本に、社員が“働く楽しみ”、“造る満足”を得る“場”を提供していきます。

3. 地球環境保全に努め、社会から期待される“良い会社”でありつづけます。

→

環境理念

経営理念

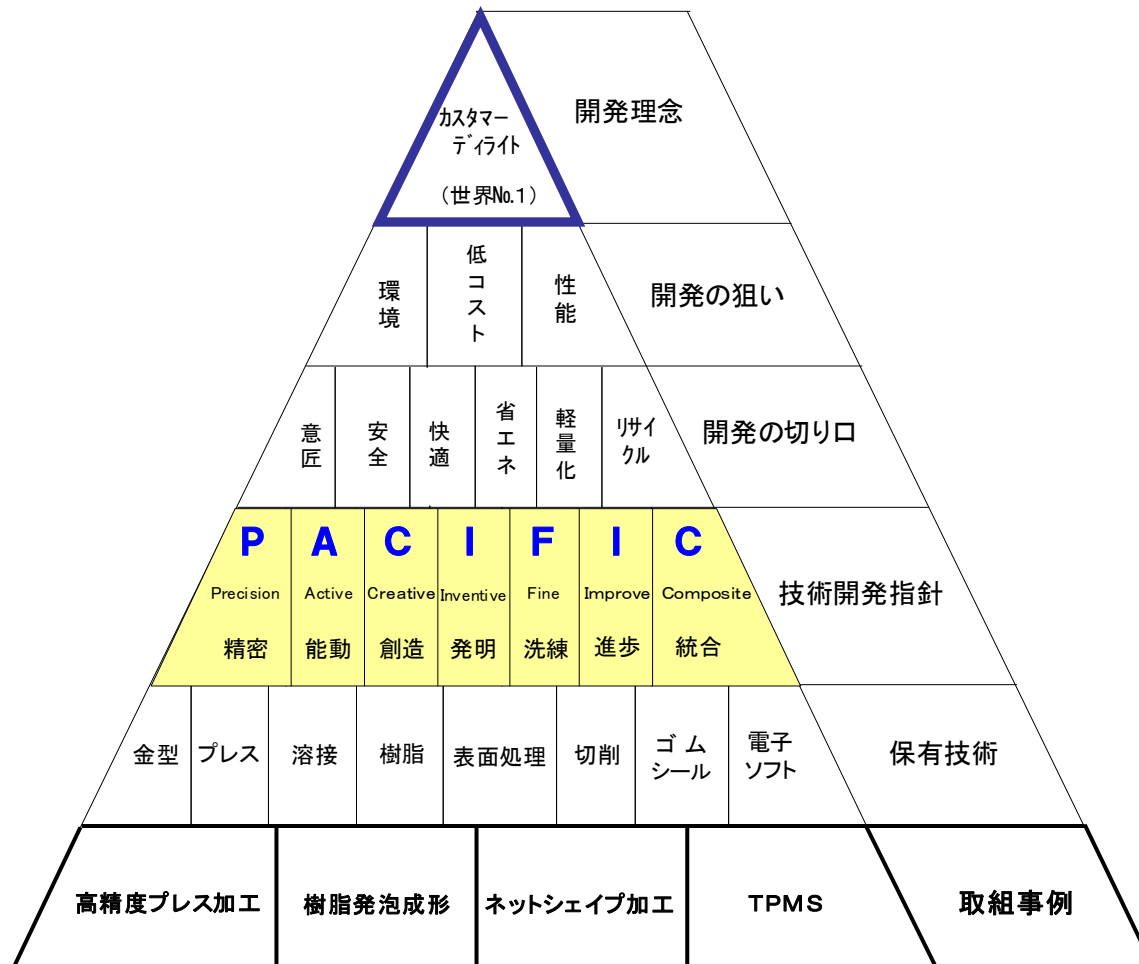
オープンでクリエイティブな経営
e-companyの実現

engineering	: 技術を売り物に
ecology	: 環境に配慮し
e-business	: eビジネス
emotional	: 活力に溢れ
efficiency	: 効率的に仕事をし
enrich	: 収益を確保しながら
enjoy	: 豊かな生活を楽しむ

1-4 技術開発・ものづくりの理念

技術開発

カスタマーデライトを理念に、
技術開発指針を策定

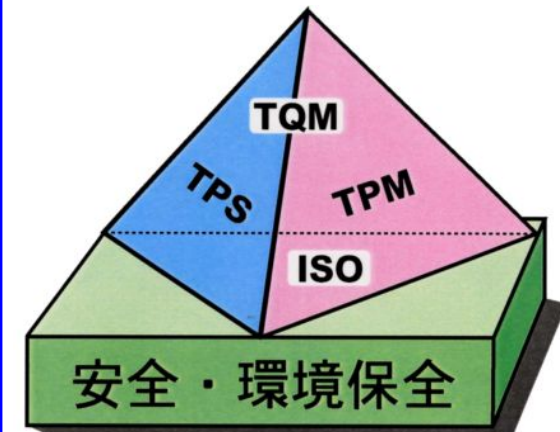


ものづくり

“ものづくり”は“人づくり”を理念に
技術と技能の両輪でものづくりを行う

四位一体のものづくり

一人一人の総合力アップ



TPS：人・仕組みの効率

TPM：設備の効率

TQM：品質・管理の効率

ISO：情報の効率

2-1 決算サマリー

		利益率	前期比
■ 連結売上高:	826億円		(21%増)
■ 連結営業利益:	39億円	4.7%	(26%増)
■ 連結経常利益:	44億円	5.4%	(30%増)
■ 連結当期純利益:	31億円	3.8%	(174%増)

●プレス・樹脂事業は主要顧客の自動車生産台数の増加、バルブ製品事業はTPMSの搭載車種の拡大により大幅増収・増益を達成

●売上高、営業利益、経常利益ともに過去最高を更新

2-2 トピックス：TPMSの生産増強

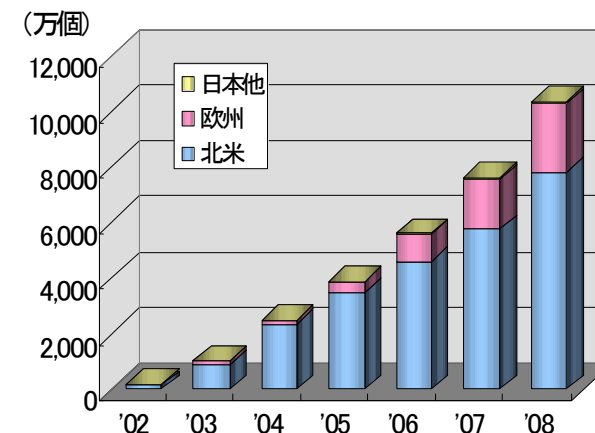
Tire Pressure Monitoring System (タイヤ空気圧監視システム)

2000年のTREAD法制定により、
2007年9月以降米国で販売される車両に
TPMSの100%装着義務化



- 2006年9月、4億円を投資し第4号ライン増設し、年間1,000万個生産体制
- 2007年夏の稼動に向け、約9億円強を投資し、第5・6号ライン増設

《TPMS市場規模予測》



年間1,600万個生産体制を構築

2-3 トピックス：エンジンカバーの開発

●世界最軽量エンジンカバー

- ・新材料・新工法で、従来比23%の重量低減と優れた防音・防振機能の樹脂製エンジンカバー（Vバンクカバー）を開発
- ・大垣・九州・米国でのグローバル生産体制確立

2006年度トヨタ自動車「軽量化・特別賞」受賞



2-4 トピックス：プレス・樹脂事業拡充

●天津太平洋のプレス工場稼働

- ・2007年5月からカローラのボディ部品の生産・納入を開始
- ・第2期としてプレス・溶接工場増設を2007年6月着工



●九州工場稼働

- ・2007年1月からエンジンカバー等の樹脂製品の生産・納入開始
- ・プレス・溶接工場を2007年着工し、2008年夏稼働予定

●東大垣工場第3工場建設

- ・2006年11月、プレス製品の高負荷対応のため、プレス・溶接工場建設・稼働

●オイルパン一貫生産ラインの構築

- ・従来のディーゼルエンジン用オイルパン(西大垣工場生産)に加え、トヨタ自動車よりガソリンエンジン用オイルパンを受注
- ・東大垣工場第3工場を増築し、プレス・溶接・塗装の一貫生産ライン新設、2008年内生産移管予定



3-1 中長期経営計画

2015年 長期ビジョン PACIFIC GLOBAL VISION 2015

2030年の創業100周年の一里塚として長期ビジョン「PACIFIC GLOBAL VISION 2015」を2004年策定

- 基幹事業としての自動車関連事業領域の拡大
- 事業構造変革(専門・機能部品、新規事業)

- 1. 連結売上高 : 1,500億円
- 2. 連結経常利益率 : 10%
- 3. 海外比率 : 50%以上



2010年 中期経営計画 OCEAN-10

2010年度を目標とした5年間の中期経営計画「OCEAN-10」を2006年策定、2007年見直し

【OCEAN-10の7大戦略】 【トップクラスのグローバル部品メーカーを目指す】

- 技術と海外

- 1. 技術ロードマップに基づく、TPMSに続く複合的な商品・生産技術の確立
- 2. CSR・環境保全に努め、グローバル展開に向けた既存・新規拠点の整備・拡充

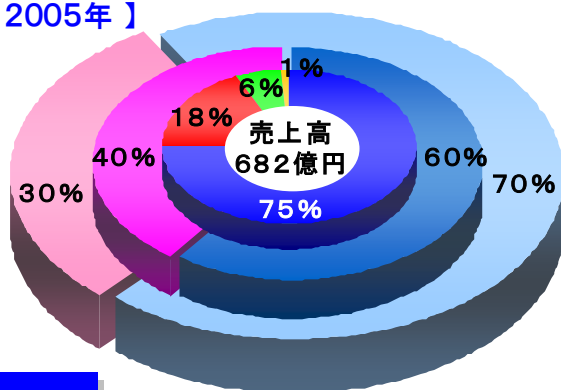
- ものづくりは人づくり

- 3. 投資・収益基盤を強化するための戦略的コスト活動
- 4. 超短期生準・垂直立上の実現
- 5. 顧客の絶対的信頼を勝ち取るための「危険ゼロ」「不良ゼロ」活動
- 6. 2015年Visionの実現を担うグローバル人財の育成
- 7. 資本の効率性を考慮した戦略的財務の確立

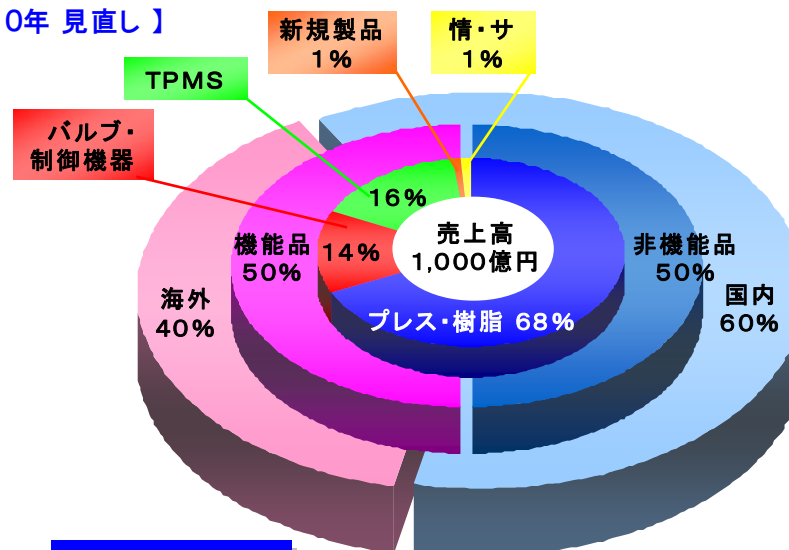
3-2 OCEAN-10の数値計画(売上・利益)

売上構成

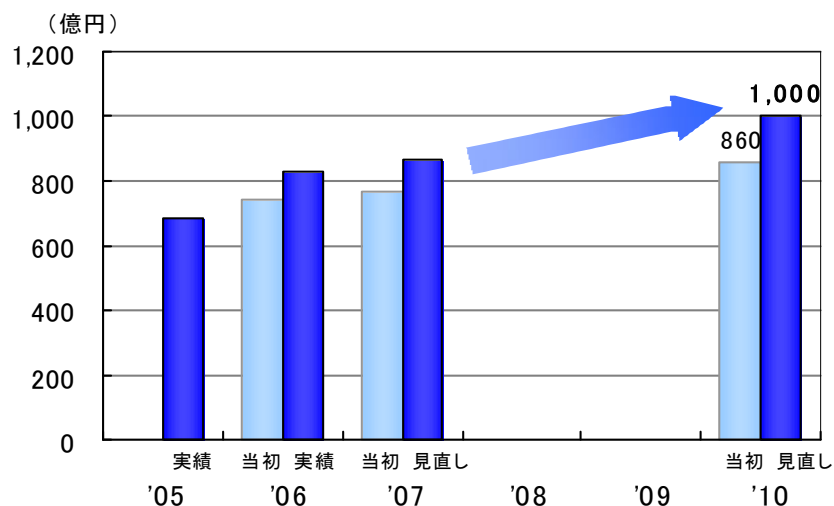
【2005年】



【2010年 見直し】

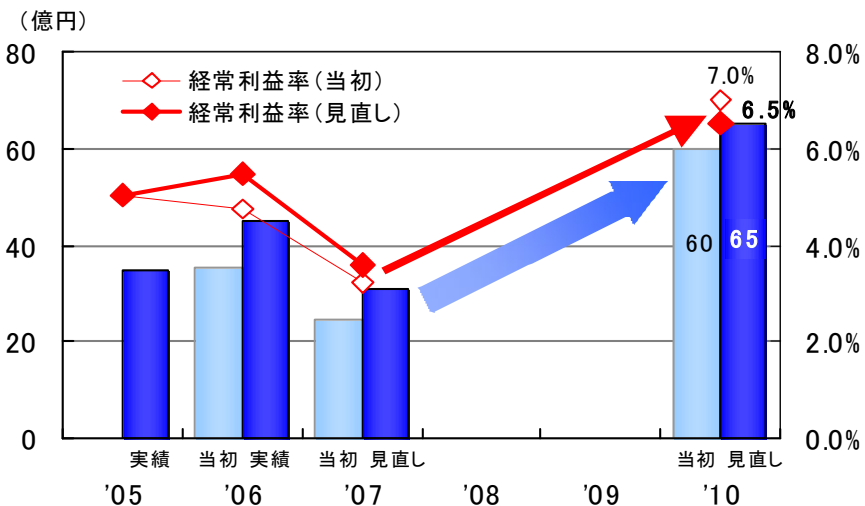


売上高



(オイルパン・他機能品増、TPMS搭載車種拡大、韓国事業拡大)

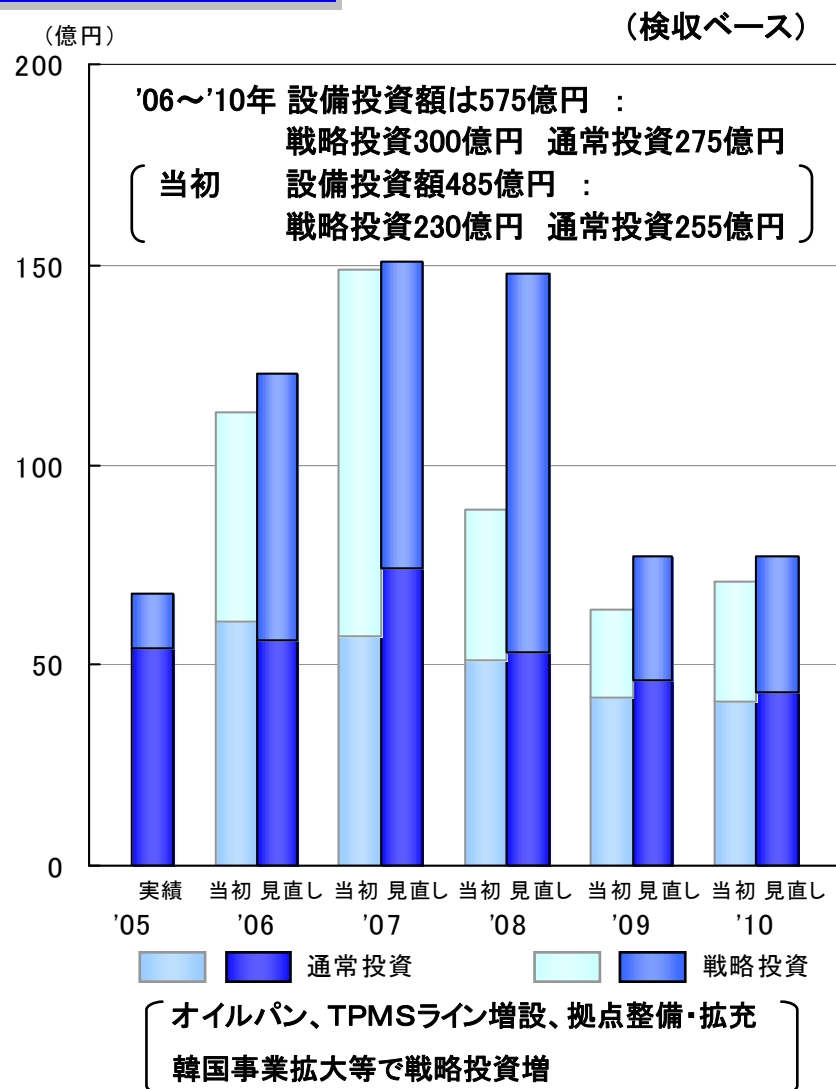
経常利益



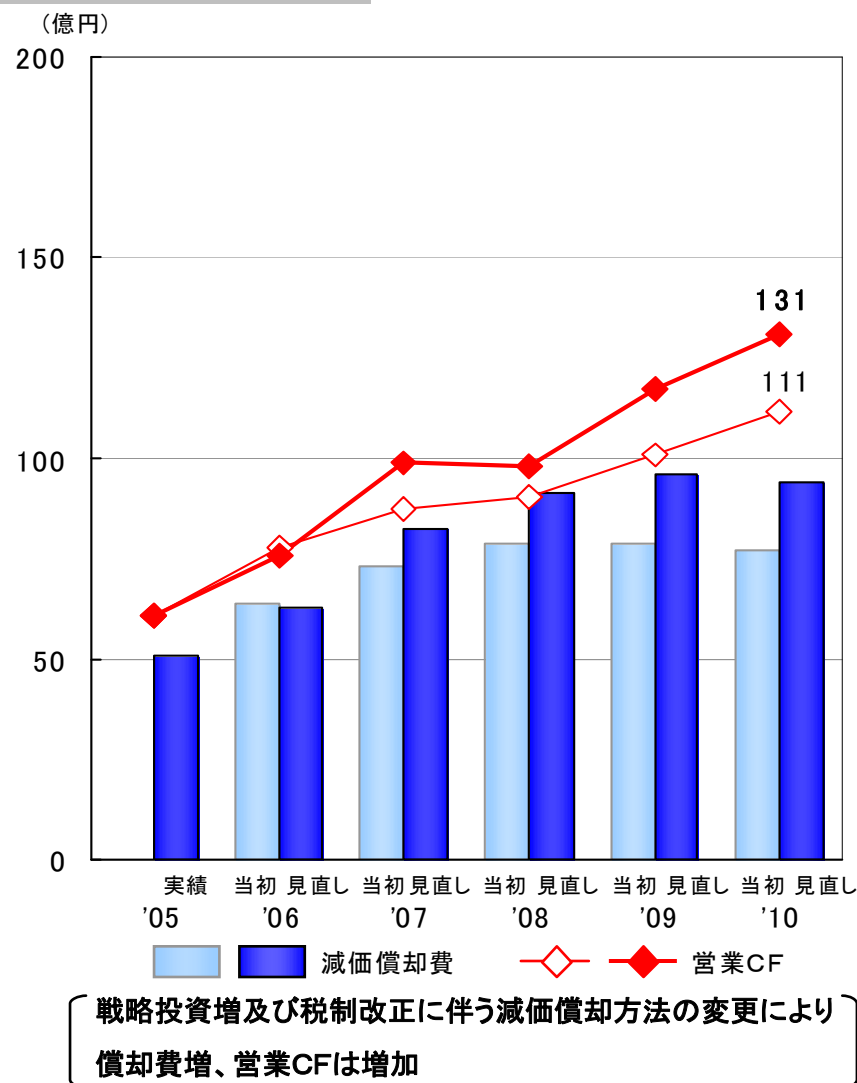
(戦略投資増及び税制改正に伴う減価償却方法の変更により償却負担増)

3-3 OCEAN-10の投資計画

設備投資



償却費・営業CF



3-4 技術開発と拠点戦略

天津
青島
台湾
タイ
韓国
大垣
九州

オハイオ
テキサス

技術開発

項 目		概要・ねらい
高精度プレス	鍛造のプレス化	●高機能品（ギア・スプロケット）への適用 ●トライポロジー・金型技術の向上
環境対応樹脂技術	樹脂・発泡加工	●VOCの対応 塗装・成形技術 ●防音・防振・発泡技術
ネットシェイプ	鍛造加工	●切削加工の鍛造化 ●材料使用量低減
TPMS	センサー技術 通信技術	●次世代TPMSの開発 ●北米の技術拠点の拡充
高圧シール技術	制御弁	●新冷媒（CO2）対応技術 ●燃料電池（H2）対応技術

拠点戦略

(億円)

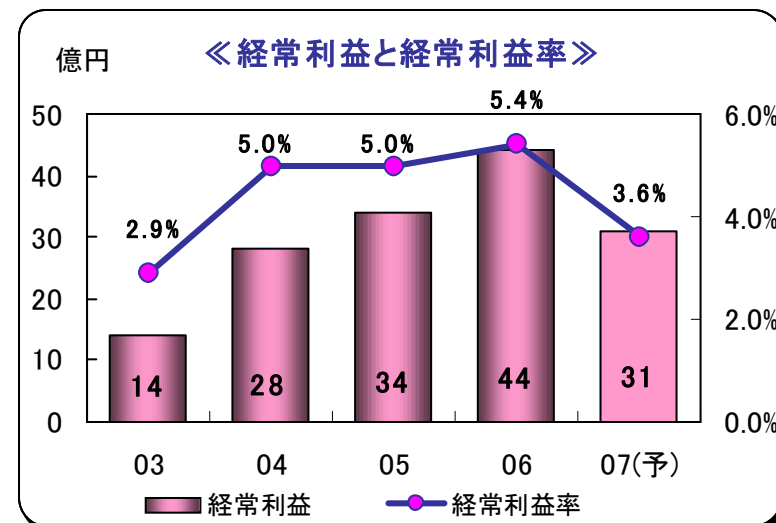
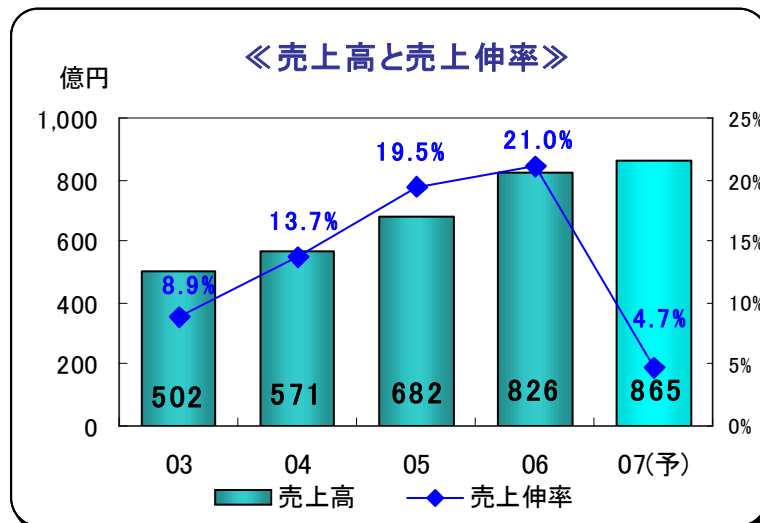
拠点		事業		売上規模 (’06～’10)	投資規模 (’06～’08)	投資目的	
						戦略	負荷 適正化
日本	東大垣	プレス	オイルパン	30	23	○	
			ボデー部品	30	28		○
	九州	プレス		30	26	○	○
		樹脂		10	8	○	○
	北大垣	高精度プレス		10	13	○	
		TPMS		70	25	○	○
海外	米国	プレス		10	7	○	○
		樹脂		10	10	○	
	中国	プレス		50	48	○	
	韓国	制御機器		15	14	○	

（億円）

4-1 連結業績実績と予想

* 過去最高値 [百万円]

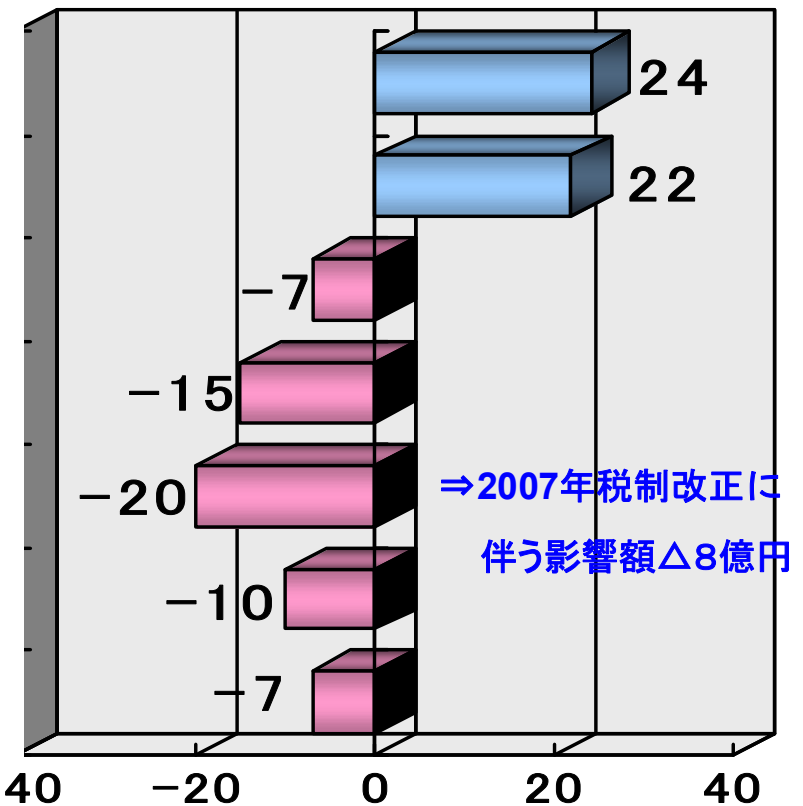
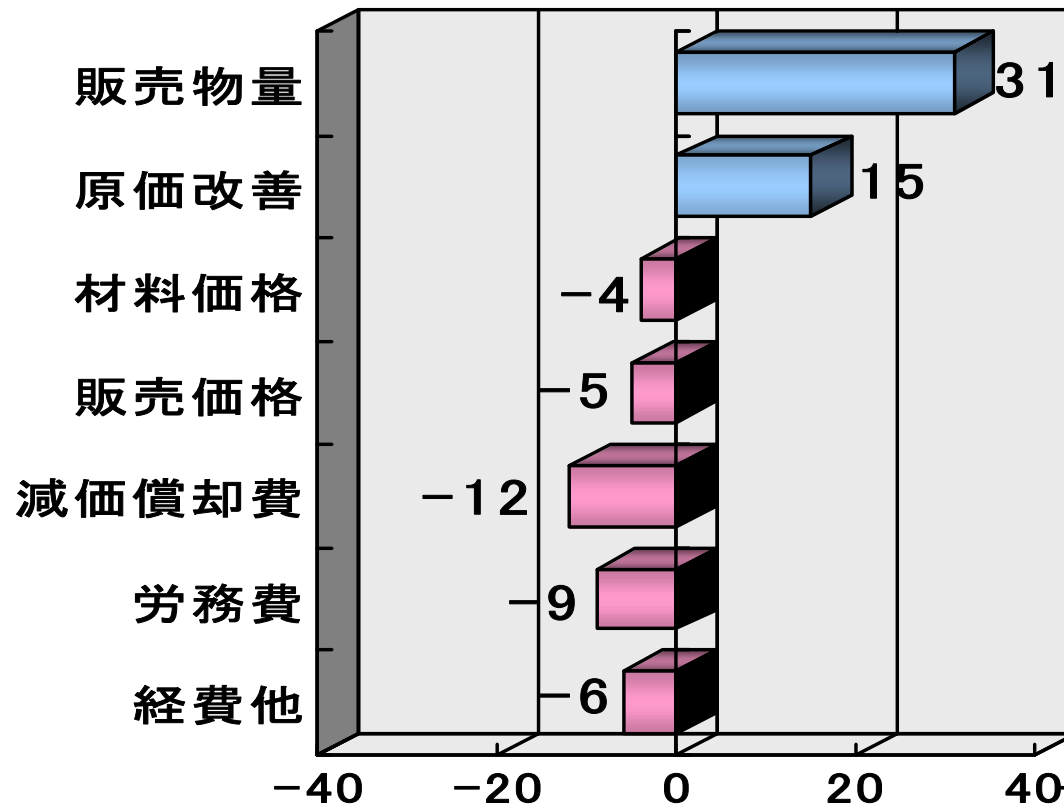
	'05年度	'06年度						'07年度			
		07年2月 発表値	実績	前期比		連単 倍率	予想	前期比		連単 倍率	
				増減	増減率			増減	増減率		
売上高	68,277	82,500	* 82,641	14,363	+21.0	1.3	* 86,500	3,858	+4.7	1.2	
営業利益	3,096	3,750	* 3,902	806	+26.0	1.4	2,700	△1,203	△30.8	1.4	
経常利益	3,439	4,150	* 4,475	1,036	+30.1	1.2	3,100	△1,375	△30.7	1.2	
当期純利益	1,147	2,850	3,144	1,996	+174.0	1.4	1,700	△1,444	△45.9	1.1	
売上経常利益率	5.0%	5.0%	5.4%	0.4%			3.6%	△1.8%			
ROE	3.2%	7.1%	7.6%	4.4%			3.9%	△3.7%			
ROA	4.2%	4.3%	4.8%	0.6%			3.0%	△1.8%			
一株当たり純資産(円)	736	806	806	70	+9.6		833	27	+3.4		



4-2 連結経常利益増減要因

《06年度 対 05年度》
経常利益 +10億円

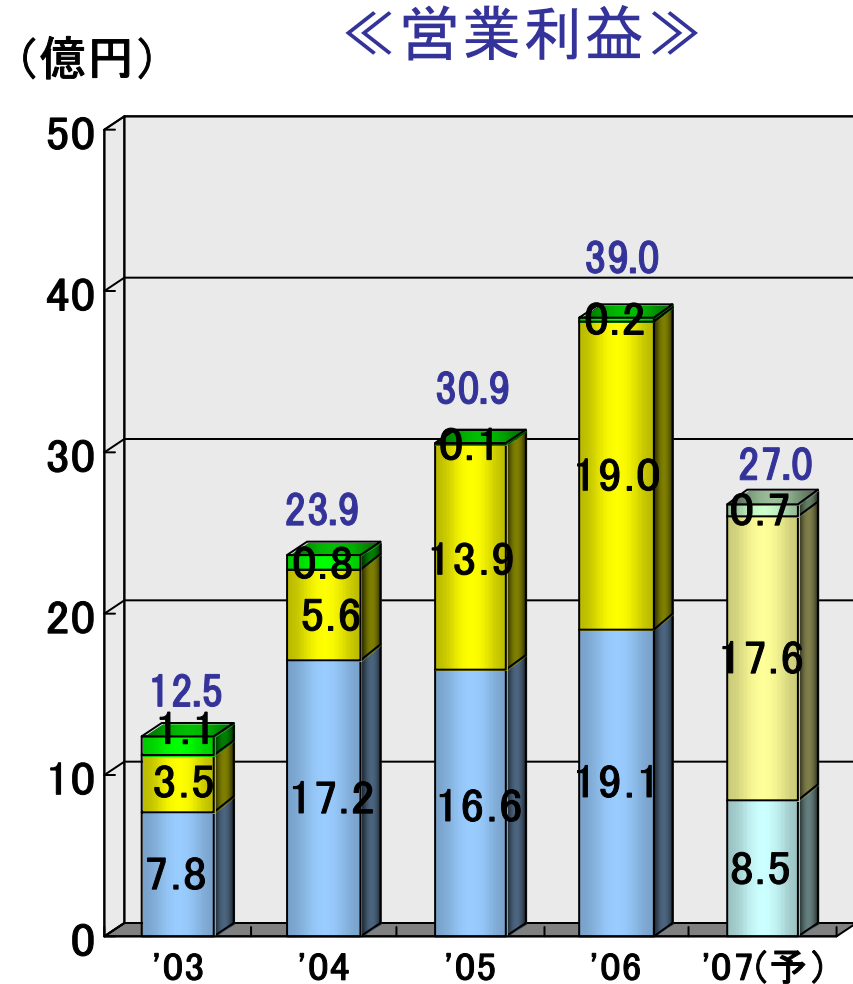
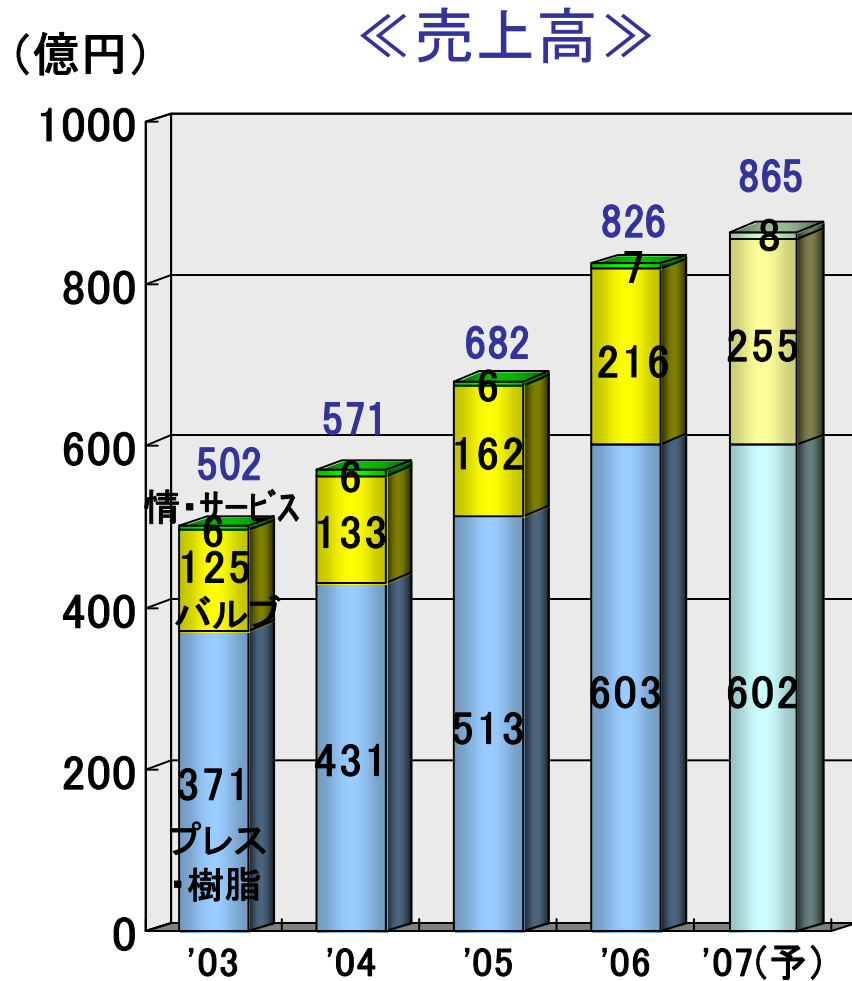
《07年度予想 対 06年度》
経常利益 △13億円



⇒2007年税制改正に
伴う影響額△8億円

(億円)

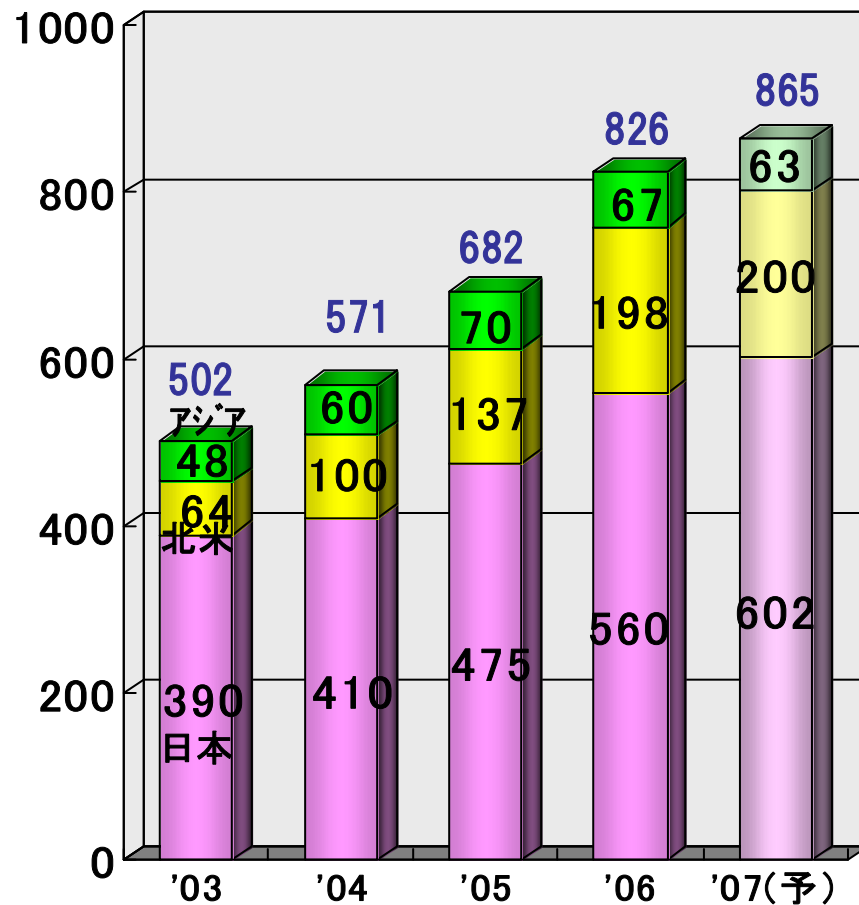
4-3 連結事業別セグメント



4-4 連結地域別セグメント

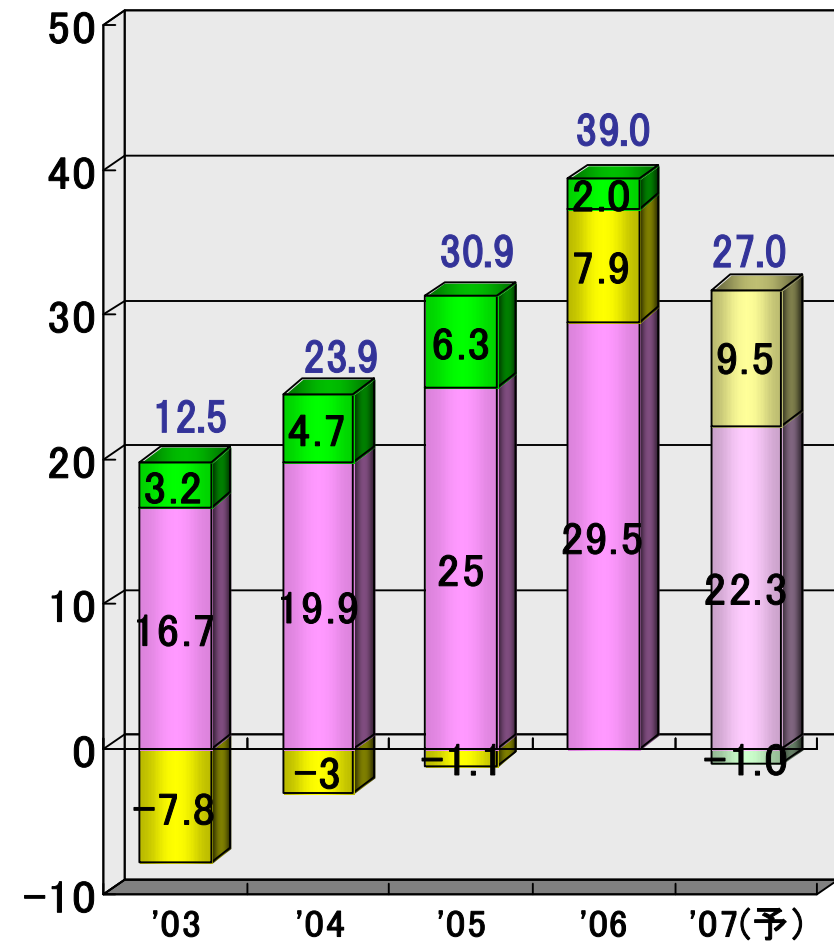
(億円)

《売上高》

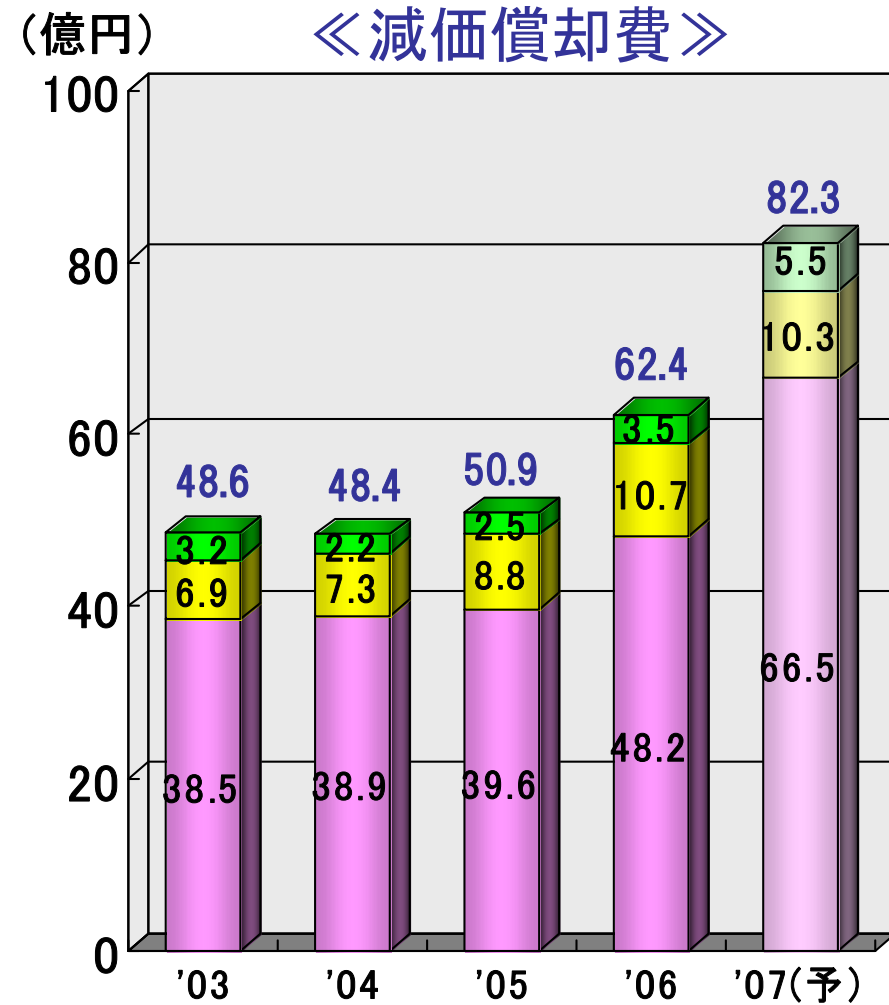
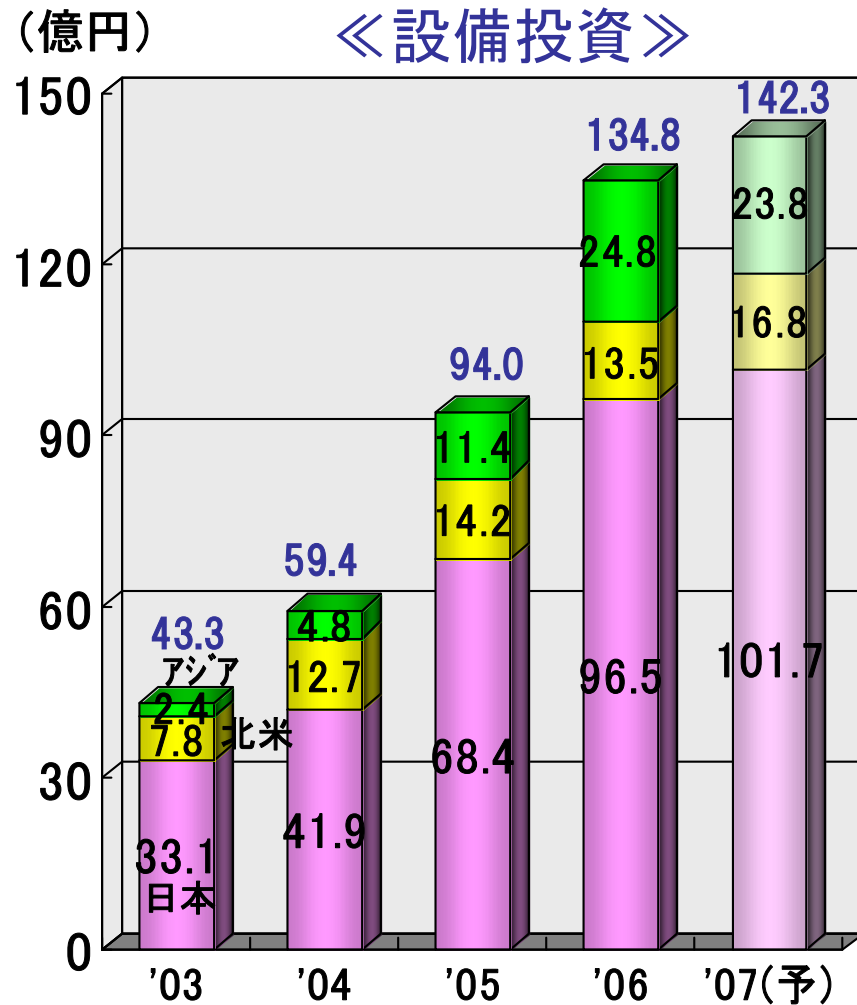


(億円)

《営業利益》

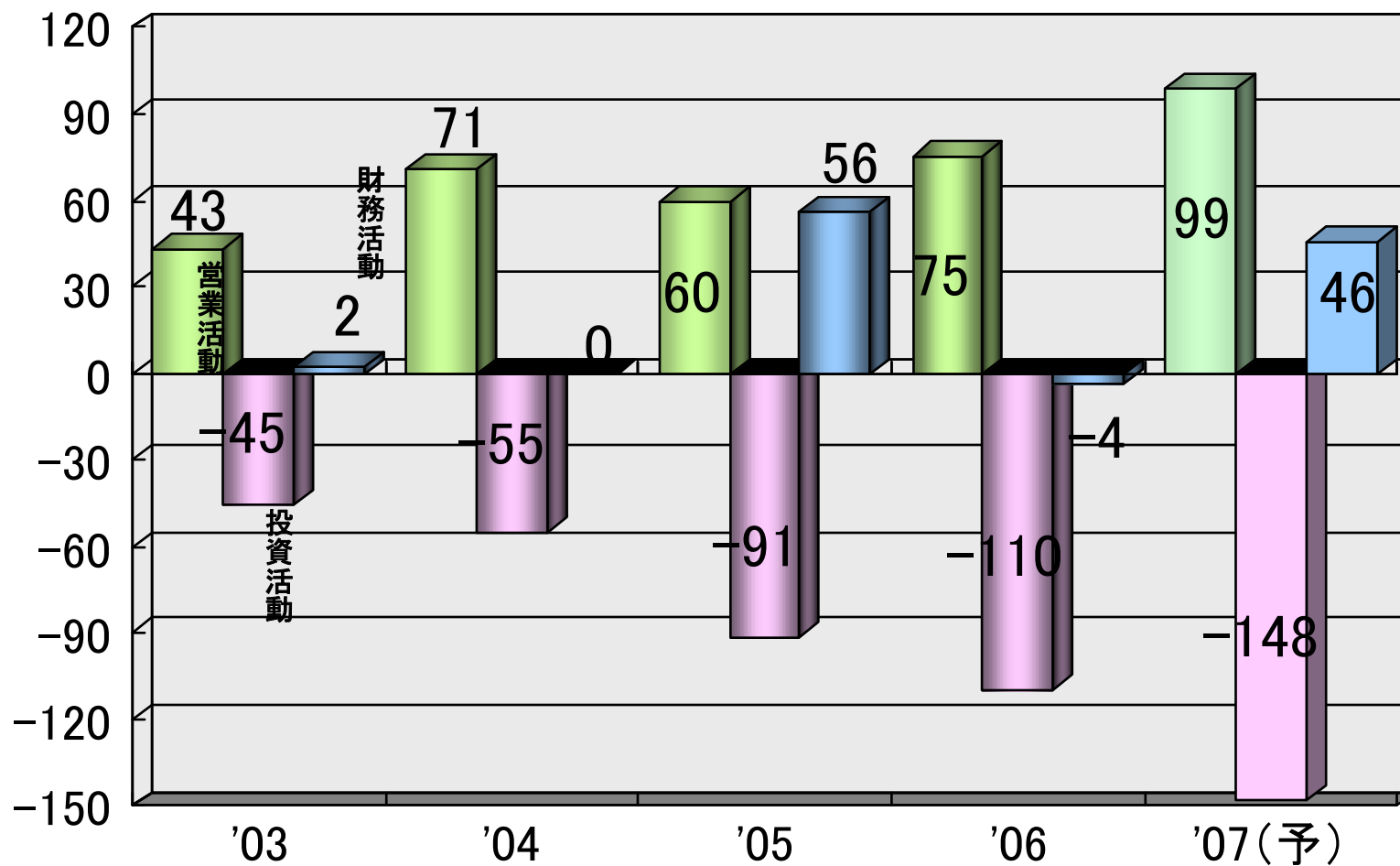


4-5 連結設備投資・減価償却費



4-6 連結キャッシュフロー

(億円)

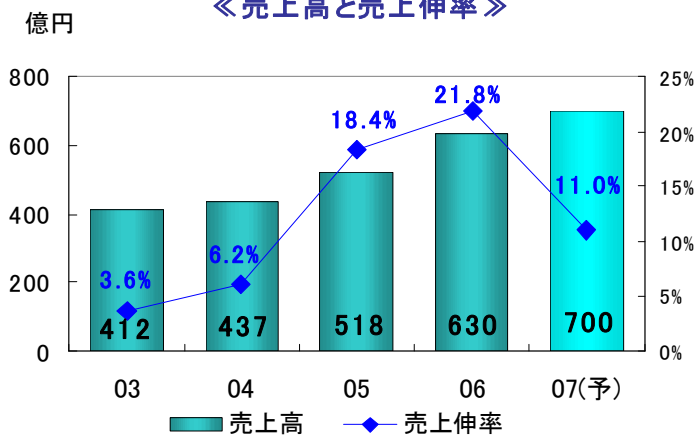


5-1 個別業績実績推移と予想

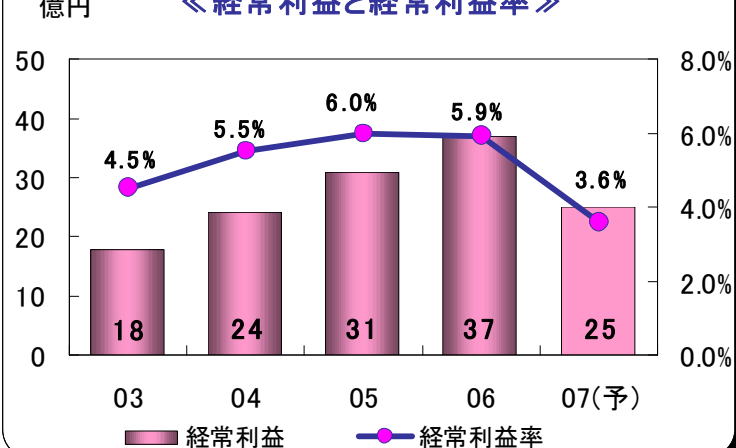
* 過去最高値 [百万円]

	'05年度	'06年度				'07年度		
		07年2月 発表値	実績	前期比		予想	前期比	
				増減	増減率		増減	増減率
売上高	51,810	63,000	* 63,090	11,280	+21.8	* 70,000	6,909	+11.0
営業利益	2,465	2,800	* 2,883	418	+17.0	2,000	△883	△30.6
経常利益	3,104	3,400	* 3,733	628	+20.3	2,500	△1,233	△33.0
当期純利益	780	2,050	2,240	1,459	+187.1	1,500	△740	△33.0
配当金(1株当り)	8円	10円	10円	2円	+25.0	10円	—	—
売経常上利益高率	6.0%	5.4%	5.9%	0.1%		3.6%	△2.3%	
R O E	2.2%	5.4%	5.8%	3.6%		3.7%	△2.1%	
R O A	4.4%	4.1%	4.5%	0.1%		2.8%	△1.7%	
一株当り純資産(円)	699	754	744	45	+6.4	761	17	+2.4

《売上高と売上伸率》



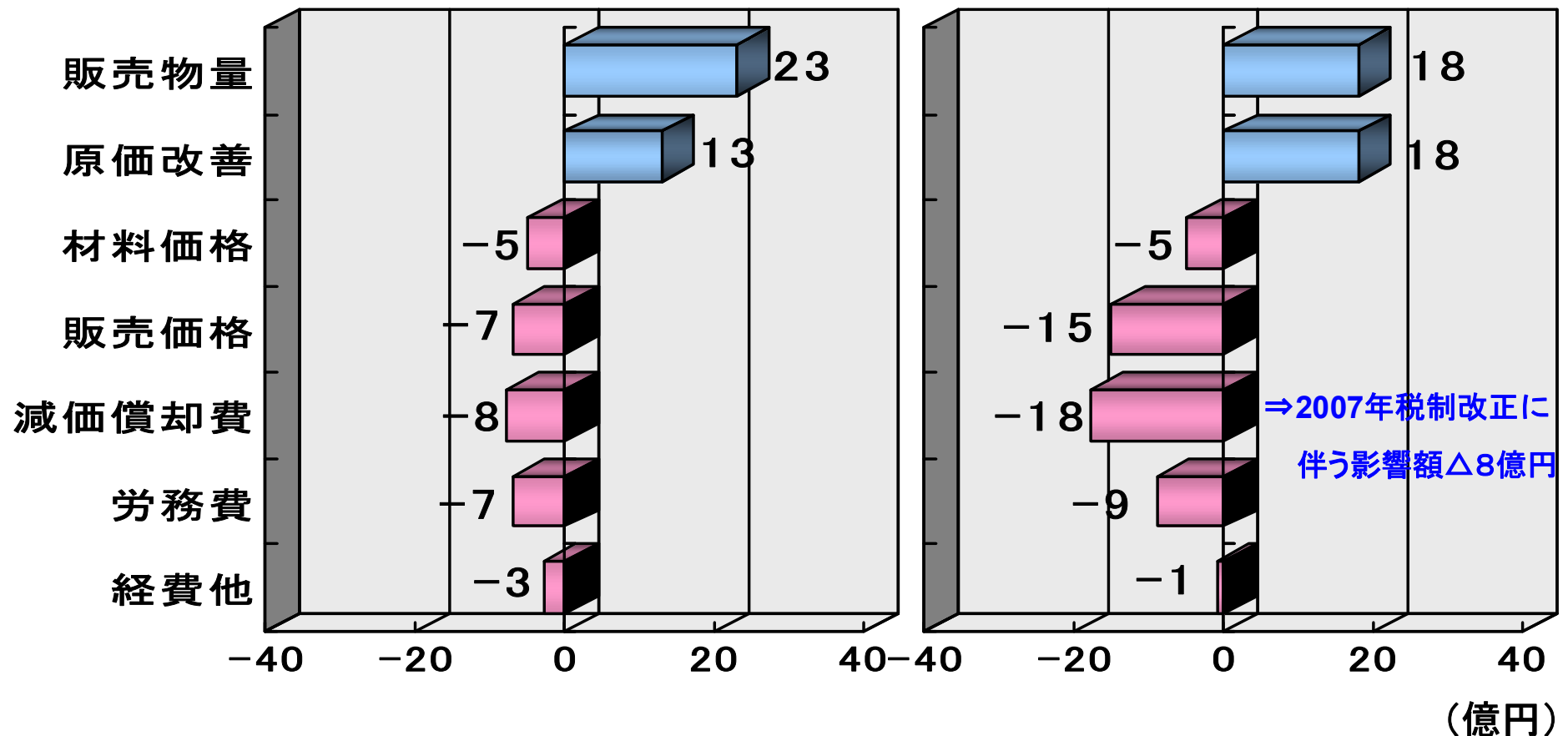
《経常利益と経常利益率》



5-2 個別経常利益増減要因

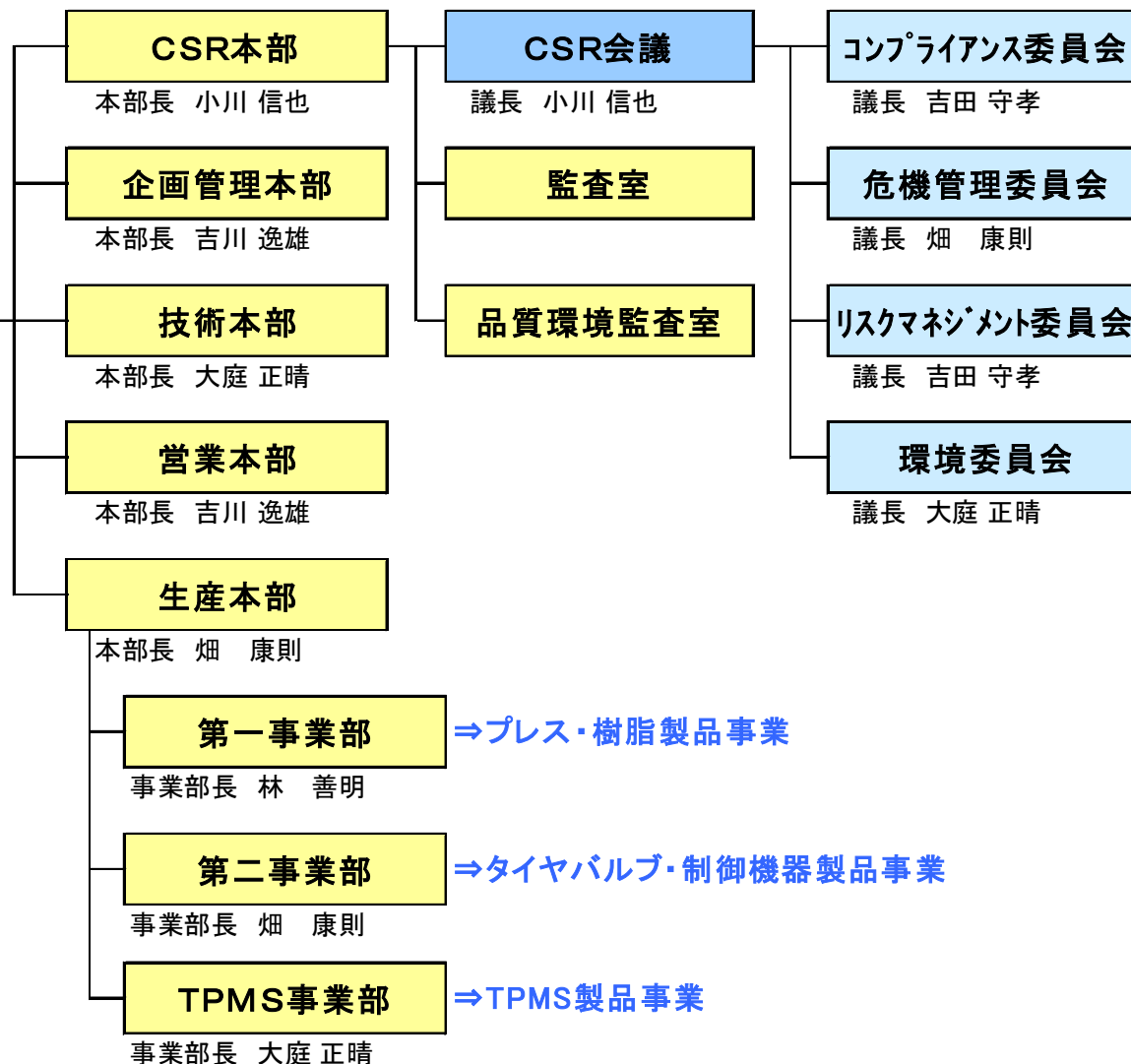
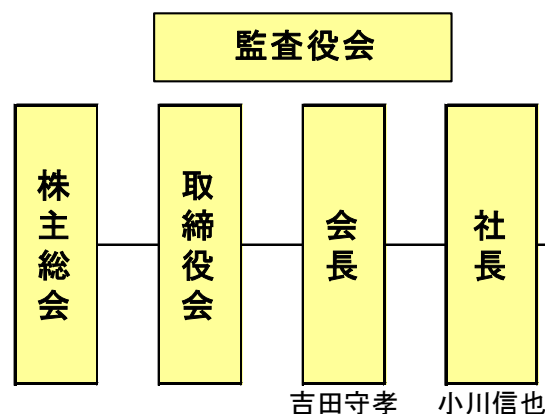
《06年度 対 05年度》
経常利益 +6億円

《07年度予想 対 06年度》
経常利益 △12億円



6-1 CSRと組織

- ・内部統制システム基本方針策定
- ・企業倫理相談窓口設置
- ・個人情報保護法、情報セキュリティ対応
- ・監査室設置



《会議体》

【戦略系】戦略会議

マーケティング・開発会議、海外会社会議

【実効系】経営会議

管理会議、トップ点検、原価会議、品質委員会、
情報システム委員会、ものづくり・人づくり委員会

【CSR系】CSR会議

コンプライアンス委員会、危機管理委員会、
RM委員会、環境委員会

6-2 株主還元

年間配当：1株につき10円（前期比2円増配）

配当総額：538百万円

配当性向：24.1%（個別）

17.0%（連結）

